

第6学年〇組 学級活動学習指導案

- 1 題材名 中学校生活に向けて、今の自分なりの自立について考えよう。
「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」

2 題材について

(1) 児童観

本学級の児童はあと約4ヶ月で小学校を卒業する。もうすぐ入学する中学校に対する関心も高い。休み時間には友達同士で集まって中学校の話をしている児童がいる。その中ではどの部活動に所属するかという話や、自転車で通学できるようになることへの期待など、中学校生活に期待する気持ちが感じられる。一方、学習が難しくなるので授業についていけるかということや、先輩との関係がうまく築けるかが心配ということなど、不安な気持ちもあることが分かる。

先日、小学校と中学校の交流を深めるための小中主張交流会や、中学校の職員が本校児童に話をする中学校説明会が行われた。これらの行事から中学校進学への不安は小さくなり期待が大きくなったように感じられた。また、中学校に進学するためにしっかりしなくてはいけないという気持ちが芽生えつつある。しかし、自分ができることは自分で言い、少しずつ自立しなくてはいけないという問題意識をもつまでには至っていない。

(2) 題材観

本学級では、小学校の卒業に向けての自立に対して、図1のような取り組みを計画した。

本校では2学期に小学校と中学校の交流を深めるために小中主張交流会が行われた。その中では小学校高学年児童と中学校生徒の代表による主張会をしたり、中学生代表による英語暗唱と中学校3年生による合唱を聞いたりした。

その後、中学校説明会として中学校の校長や教諭が小学校に来て、本校児童に話をする機会を設けた。その中で中学校校長は中学校の校訓である自律の大切さや小学校生活との違いを話した。次に中学校生活で気を付けることや部活動についてなどを話している。本学級の児童も意欲的に話を聞き、中学校生活に対する期待を高めることができた。1月には中学校の見学を予定している。

そのため、中学校生活に向けて小学生のうちに自分でできることは自分でできるようにしておかなければならないと考えた。今の本学級の実態を考えると、自立しようとする態度を養うためにはまずは、今の自分や学級を見つめ、問題に気付かせる必要がある。そこで、本題材を通して、今の自分の状態を振り返り、自立することの必要性を感じさせながら、解決を図ろうとする気持ちが育つようにしたい。

本題材を児童の自治的な話し合いにより解決に導くことは、題材を自分たちの問題として共有化し、今後の学級生活を更に豊かにしていこうとする意欲につながると考えた。

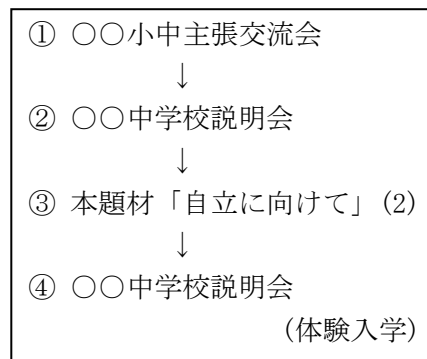


図1 取り組みの計画

(3) 指導観

ア 話し合い活動を取り入れる意義

指導にあたっては、本題材を自分たちの問題として共有化し、自治的な話し合いにより解決に導くために、話し合い活動の形態を取りたい。それにより、自分自身の問題を自分で見つけ、友達と共有し、解決しようとする意欲へとつなげたい。さらに、話し合い活動の形態では、友達の考えを最後まで聞き尊重しようとする態度や、めあてを意識しながら自分の考えを整理したり、考えを分かりやすく伝えたりしようとする態度も育てられると考えられる。

イ 事前指導

話し合いの柱を事前に知らせ、児童に前もって考えをもたせておくことで、本時の話し合いに全員が意欲的に参加できるようにさせたい。同時に、学級会ノートに意見を書かせることで、担任が事前に学級の実態をとらえることにより、本時での助言・支援に生かせるよう配慮したい。

自立に関する問題を学級内で共有化するために質問紙によるアンケートを実施する。その後、

家庭での自分の様子を振り返り、自立について意識して生活をさせる期間を設ける。実施したアンケートは本時の中で紹介することで、自分の状況と学級の子どもの状況の結果を比べさせる。それにより、自分の問題を明確につかませたい。また、自立についての作文を書くことで、自分をしっかり見つめさせる。

ウ 本時の指導

本時の指導に当たっては、まず、今の自分を振り返る時間を設けることで、自立に対する問題意識をもたせたい。

次に自立することの必要性を考えさせる。友達の意見を聞くことによって価値を高めるとともに自立することの必要性に対する視野を広げたい。さらに、自分だけでなくみんなも自立することが必要だと思っているという安心感をもたせたい。

そして、解決策を発表させる。知恵を出し合うことで、自分の考えだけでなく友達の考えを参考にすることができるようにする。

最後に行動のめあてを掲示したり、宣言をさせたりすることで実践への意欲を高めさせる。そのことで実践を行う際に声を掛けながら励まし合えるようにしたい。

エ 事後指導

本題材では実践について帰りの会の時間にグループで振り返る時間を設ける。それによりがんばっていることを友達から称賛されたり、実践を進めるに当たって友達の実践方法のよさを知ったり、うまくいかないことへのアドバイスを受けることができるようになる。それにより、実践方法を改善しながら取り組むことができる。それは、今後の実践への意欲を更に高めることにつながると考える。本題材で自立についてしっかりと見つめさせることで自立することのよさをしっかり価値付けたい。

3 題材の目標

自分なりの自立について自分の問題としてとらえ、自立することの大切さに気付くとともに、問題解決のために自己決定した自分のめあてを守るよう努力することができる。

4 指導計画(* 提→提案者, 司→司会グループ)

	全体の流れ	活動のための支援	評価
事前活動	○ 議題集め(全員) ○ 中学校生活についてのアンケート調査(全員) ○ 自立について、作文を書く。 ○ 題材決定(提案者と相談) →「自立について考えよう」 【第1回計画委員会(提・司)】 ・ 題材名の工夫と活動計画の作成 ・ 役割分担 【第2回計画委員会(司)】 ・ 話合いのめあて、柱を決める。 柱1 今の様子 柱2 必要性 柱3 解決策 ○ 活動計画表(原案)の配布。 【第3回計画委員会(司)】 ・ 話合い活動の準備と打ち合わせ。	・ 議題を集める際に、「解決したいこと」の方向からも考えるよう呼びかける。 ・ 学校行事である中学校説明会があることを知らせ、中学校生活に対する気持ちを書かせる。 ・ 自立について、中学校説明会后に、自分自身を振り返って書かせる。 ・ 中学校説明会を受けて、自立について学級で話し合うことを知らせる。 ・ 提案者の思いを入れるために、計画委員と担任と一緒に考え、助言する。 ・ 計画委員と担任と一緒にめあてと柱を考える。何のための話合いかを提案理由を基に児童と一緒に考え、話合いのめあてに生かすように助言する。 ・ 事前に原案を配布し、自分の考えをもたせておくことで話合いに意欲的に臨めるようにする。 ・ 諸準備を、前回の司会グループの児童に相談して行うよう助言することで、教師の手をなるべく借りずに、自分たちの手で準備を進めていくことができるようにする。	・ 自立することの大切さについて考えようとする。【関心・意欲・態度】
本時	○ 話合い活動(1/2, 本時) 「中学校生活に向けて、今の自分なりの自立について考えよう。」 ○ 話合い活動の後に決めためあてを書く。(自己決定)。		・ 自分なりに自立するためのめあてを決めることができる。【思考・判断・実践】
実践・振り返り	11/25(木)から自分のめあてや学級で決めたことを実践していく。 ○ 活動全体に対する相互評価(2/2)	・ めあてを意識して実践させるため、自分のめあてを教室に掲示する。 ・ 意欲を持続させるため、自己評価をしたり、友達のがんばりを帰りの会で紹介したりさせる。そうすることで、これまでの実践を見直し、更に意欲を引き出す。 ・ 自己決定したことを基に個人として努力し目標の実現を目指した成果について振り返らせ、お互いに評価させる。	・ 自分なりに自立することの大切さを理解することができる。【知識・理解】

5 本時について

(1) 本時の目標

自分なりに自立するための方法を学級全体で考えることで、今の自分や学級の実態を踏まえ継続して取り組めるような自分のめあてを決めることができる。【思考・判断・実践】

(2) 本時の展開

題材	中学校生活に向けて、今の自分なりの自立について考えよう。	
提案理由	6の○のみんなもあと4か月で小学校を卒業します。この前の主張会では、中学生のすごい主張や暗唱、合唱を聞きました。また、中学校の先生方が来て、自律(中学校の先生は自立ではなく自律の話をされた)の大切さや中学校生活について話してくれました。そこでもうすぐ小学校を卒業するみんなにできる自立について考えたくて提案しました。	
話合いのめあて	- 今の自分にできることから、自分に合った自立について考えて発表しよう。 - 教室にすみずみにひびくように元気よく大きな声で発表しよう。	
時間	話合いの順序	指導上の留意点(◆は本時の評価)
7分	1 はじめの言葉 2 学級の歌 3 司会グループの紹介 4 題材と提案理由、話合いのめあての確かめ	- 事前に司会グループと打ち合わせをし、話合いの進め方について理解を深めておく。 - 学級全体のことを話し合う意識を高め、元気よく発表できるようにするために、学級の歌を歌わせる。 - 司会の児童にめあてを読ませて内容を全員で確認することで、めあてを意識して話合いに臨むようにさせる。
10分	5 話合い 柱1 「6の○のみんなは自立できているか。」 ① 自分のことについて発表する。 ② アンケートを見て思ったことについて発表する。	- 時間の見通しをもって話合いを行うために、残り時間の提示をする。また、今回の話合いでは柱が3つあるので短冊を用意しておき、出された意見を短冊に書かせることで黒板記録にかかる時間を短縮し、話合いを円滑に進められるようにする。 - 話合いは司会グループの進行を中心に進めさせるが、必要に応じて担任が意図的に意見を取り上げたり、称賛したりすることで、互いの意見のよさに気付かせる。また、話合いが停滞したときは、出された意見を整理し、近くの児童と相談させることで、自分の考えを深めるようにさせる。 - 柱1での話合いで、自分のマイナス面ばかりが出ている時は、もっとプラス面を出すように助言し、自分のプラス面に気付くようにさせる。 - 自分のことを振り返らせておくことで、柱3の後で自分に合った行動のめあてを選択できるようにする。 - 今の様子を更に深く考えさせるために、報告したアンケートの結果も参考にするように助言する。 - 時間や場所などを具体的に発表させることでそのと

5分	柱2 「自立することはなぜ大切か。」	きの様子を共有化する。 ・ 柱2で、意見が出にくいときは、中学校生活と小学校生活との違いや保護者の方にしてもらっていることを振り返らせることで、自立することの大切さについて考えさせる。 ・ 自立についての様々な考えを聞かせることで、自立することの大切さを実感させる。
15分	柱3 「もっと自立できるようにするためにはどんなことができればよいか。」	・ 柱1で出た意見を振り返ることで、今の自分に合うような方法を考えさせる。
8分	6 話合いの気づき・自分のめあて 7 『〇〇賞』の発表 (最もめあてに沿って話合いに参加していた児童) 8 先生の話 9 終わりの言葉	・ 話合いの後、もっと協力するためのめあてを書かせることで、話合いの振り返りをさせるとともに、事後の実践への意欲を高めさせる。 ◆ 自立について、今の自分や学級の実態を踏まえ、継続して取り組めるような自分のめあてを学級会ノートに書くことができる。【思考・判断・実践】(ノート) ・ 『〇〇賞』に選ばれた児童に自信をもたせ、他の児童に『〇〇賞』に選ばれた児童の発表の内容を手本にするよう促すことで、次回の話合いに生かすようにさせる。 ・ 司会グループの児童や話合いのめあてに沿って話合いに参加していた児童を称賛することで、実践や次回の話合いへの意欲を高めさせる。